

復興支援バス活動報告

～東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市、福島県相馬市、南相馬市を訪問しました～

東日本大震災では、浦安市も大規模な液状化被害を受けましたが、この際には全国各地からの温かいご支援と多くのボランティアの皆さんのご協力をいただき、たくさんの勇気をいただきました。そして現在、市内では、早期復興に向けて全力で道路工事等の復興事業が行われています。

復興支援バス事業は、こうした経験もふまえて、地震等で被害を受けた被災地を側面から支援することを通して、少しでも復興の一助になればとの思いで実施しているものです。

今回は、去る11月29日（土）から30日（日）にかけて、東日本大震災で甚大な被害を受けた被災地の中から、宮城県石巻市と福島県相馬市、南相馬市を訪問しました。

石巻市は、東日本大震災が原因による死者、行方不明者が約4,000人と宮城県内で最も多くの人的被害がありました。また、福島県内でも、南相馬市では約1,100人の方々が、また、浪江町、相馬市、いわき市、でもそれぞれ500人前後の方々が、そして、他の市町村でも多くの方々が犠牲になるなど被害は甚大で、原発事故の影響もあって、今もなお大勢のみなさんが避難生活を強いられています。

【1日目ー浦安市～石巻市～多賀城市（宿泊地）】

11月29日（土）の7時30分に市総合福祉センターを出発し約7時間をかけて石巻市社会福祉協議会を訪問し、震災当時の市内の状況や被災地の現状、災害ボランティアセンターの運営実態とボランティア活動の状況などについてご説明を受けました。また、車窓から被災地の状況を視察しました。



石巻市社会福祉協議会前にて



石巻社協の阿部氏から説明を受けました



熱心に説明を聞く熱加者の皆さん①



熱心に説明を聞く参加者の皆さん②



車窓から被災地を視察（門脇小跡）



被害を受けた沿岸部は今も更地のまま

【2日目—多賀城市～相馬市～南相馬市～浦安市】

11月30日（日）の午前7時45分に宿を出発し、南相馬市から相馬市に一時移転している福島県福祉事業協会の福祉施設「原町学園」を訪問し、施設の皆さん達と一緒に、花の苗植え等のボランティア活動を行い、とても喜んでいただくことができました。参加者の皆さんと施設の皆さんとが嬉しさを共有することができた瞬間だったと思います。なお、使用した花（パンジー、ガーデンシクラメン）や苗木（ソメイヨシノ）、園芸用土、プランター等は浦安市緑化事業協同組合様から施設に寄付していただいたものです。ご協力ありがとうございました。

この施設での活動を終え、一行は最も福島県内で人的被害の大きかった南相馬市へと向かい、車内で地元ボランティアガイド様の説明を受けながら被災地の現状を視察して回った後、浦安への帰路に就きました。



原町学園へ花苗などの目録を手渡ししました。向かって左側の方がの草野施設長です。



浦安市緑化事業協同組合寄贈された花苗の数々



浦安市緑化事業協同組合から寄贈された桜の苗木



原町学園の皆さんと桜の苗木の植えました



浦安市緑化事業協同組合のプレート



原町学園の皆さんとフラワーポットの作成 ①



原町学園の皆さんとフラワーポットの作成②



原町学園の皆さんとフラワーポットの作成③



完成したフラワーポット



原町学園の皆さんとフラワーポットの作成④



完成したフラワーポットの前で記念撮影



被災当時の様子を説明して下さった南相馬市観光ボランティアガイドの岩橋さん。車内では、民謡も披露してくださいました。ありがとうございました。



南相馬市の大悲山にて



南相馬市内には至る所に除染廃棄物の仮置き場がある



今も痛々しい爪痕が残る

【おわりに】

復興支援バス事業は、昨年の福島県いわき市の訪問に次いで、今年で二度目となります。

昨年は20名の参加をいただき実施しましたが、今年は、昨年のいわき市よりもはるかに時間がかかる行程でありながら、40名の皆様の参加をいただきました。

両日ともあいにくの雨や曇りといったお天気だったため、参加して下さった皆様にはご不便をおかけした面もありましたが、皆様にはスムーズな運営にご協力をいただきました。ありがとうございました。

また、申込みいただいたにもかかわらず満席のために参加していただくことができなかった皆様、キャンセル待ちをしていただいた皆様には、心からのお詫びと事業へのご理解に対する御礼を申し上げます。

今回の復興支援バスに参加していただいた皆様から寄せられるご意見やご感想を今後の復興支援バス事業の実施に活かしてまいります。